

年 組 名前:

微小プラスチック 県内全域に 県調査 河川全8地点で確認

流入認知度 3割どまり

県が実施した微小なプラスチック「マイクロプラスチック」の調査によると、調べた県内河川全8地点で計655個のマイクロプラスチックが確認された。マイクロプラスチックは県内全域に広がっているが、県民へのアンケートでは県内河川などで確認されていることを知っている人は約3割にとどまっている。県は県民の意識を変えようと河川などへの流出抑制につなげようと、周知や啓発に向けた動画を新たに作成した。

〈雨宮文貴〉

環境整備課によると、調査は2019年から毎年、場所を固定せずに実施。いずれの年もマイクロプラスチックが確認されている。昨年は7月20、30、31日の3日間、富士川水系の濁川、鎌田川、笛吹川、富士川の各1地点、相模川水系の宮川、桂川の各2地点の計8地点で調べた。各河川で12〜202個のマイクロプラスチックが見つかり、1立方センチあたりでは濁川が10・9個で最多だった。富士川水系の方が相模川水系より多く、「人が多い地域で多い傾向があった」（同課担当者）という。

マイクロプラスチックは直径5ミ以下の微小なプラスチック片で、環境汚染の原因の一つとされる。回収が困難で、対策にはプラスチックごみの排出抑制や飛散、流出防止が求められる。県が24年度に実施した県民アンケートでは、県内河川などへのマイクロプラスチックの流入状況に対する認知度は34・3%にとどまる。原因の一つとみられる屋外で使う洗濯ばさみやバケツなどプラスチック製品の飛散を防ぐには適切な管理が必要だが、適正に管理していると答えた人も33・8%と低水準だった。県は3月に策定した県プラスチックごみ等発生抑制計画で、29年度に認知度と適正管理をいずれも50%に引き上げる目標を設定。マイクロプラスチックの紹介や原因、対策などをまとめた約20分の動画を新たに作成し、YouTubeの県公式「山梨チャンネル」で公開しているQRコードを参照。同課担当者は「一人一人の意識を変え、抑制につなげたい」としている。



QRコードをスキャンすると、動画を視聴できます。

問1

マイクロプラスチックが、県内河川などで確認されています。そのことを知っている人が少ないことから、県は、どのような動画を作成しましたか。

.....

(2025年4月11日付 山梨日日新聞 18面)

問2

昨年の7月に調査した河川を、すべて答えてください。

.....

問3

回収が困難なマイクロプラスチックは、環境汚染の原因となっています。その対策には何が必要ですか。

.....